

7 台風接近時雨・風一括修正ガイダンスの開発（第二報）その2

上原政博・佐喜真和夫・戸高公博・三浦大輔（沖縄气象台）

1 はじめに

沖縄地方に接近する台風時の雨・風の防災時系列を修正する方法について、風の修正方法を昨年に引き続き検証した。

昨年度は「RSM の台風進路を台風指示報による予想進路で補正し、沿岸波浪モデルの海上風分布をずらす」方法を試みた。しかし、海上風には、台風ボーガスが埋め込まれていることから、元のRSM起源の台風の風分布と合わせて、2つのピークをもった風分布となる場合があり、単純な海上風の移動ではうまくいかないことがわかった。

今年度は、海上風の台風ボーガスと最新の台風指示報との位置差を計算し、台風ボーガスをずらすことで、防災時系列値を修正する方法を試みた。

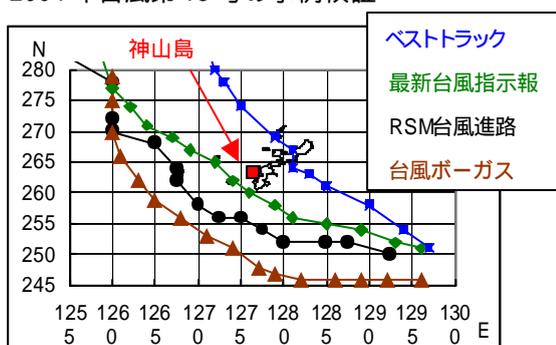
2 台風ボーガスを使った補正方法

沿岸波浪モデルの台風ボーガスは、モデル初期値と同時刻の台風指示報を用いて48時間先まで単純に埋め込まれており、海上風には既に台風指示報による補正が組み込まれているといえる。

ただ、台風指示報の予想が安定している場合は、更なる補正の必要性は薄いですが、予想が発表毎にずれていく場合には、最新の台風指示報による置き換えは効果的と考えられる。

方法としては、台風ボーガスの中心位置と最新の台風指示報の中心位置との差を48時間後までもとめて、時間ごとに台風ボーガスの位置をずらした。

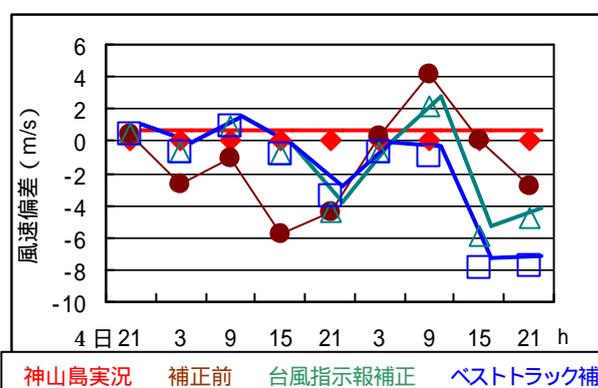
3 2004年台風第18号の事例検証



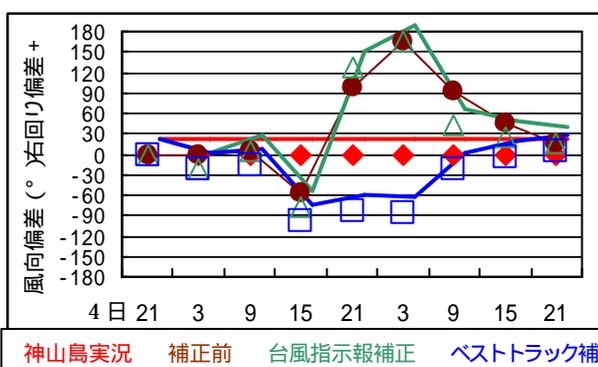
第1図 T0418 進路

台風第18号は沖縄本島の南東から名護付近を通過し北西に抜ける進路をたどったが、4日21時初期値のRSMや台風ボーガス、5日03時台風指示報は沖縄本島と宮古島の間の海上を通過する予想となっていた。

4日21時初期値の海上風を最新の03時台風指示報で補正し、神山島の実況値と比較した（最適値としてベストトラックによる補正とも比較）



第2図 神山島の実況風速からの偏差



右回りを+左回りを-として180を超えると戻した

第3図 神山島の実況風向からの偏差

結果は、風速の補正は、実況と近い値までうまく補正できている。風向については、最新の台風指示報による補正でも、5日21時頃からの風向変化が実況とは逆回りとなったが、最適補正のベストトラック補正では、実況と同じ変化傾向に補正できた。

4 まとめ

今回の事例で、台風指示報の予想が大きく変わる場合は、今回の補正方法の有効性が確認できた。